

2016年7月12日

報道関係各位

ソーラーフロンティア株式会社

ソーラーフロンティア、米カリフォルニアで 合計 107 MW の太陽光発電所を建設

米国における太陽光発電開発案件群は 400MW 超

【米カリフォルニア州 – 2016年7月12日】 – ソーラーフロンティア株式会社（代表取締役社長：平野敦彦、本社：東京都港区台場2-3-2、以下：ソーラーフロンティア）は、米国カリフォルニア州インペリアル郡において合計 107MW の大規模太陽光発電プロジェクトの建設を開始しましたのでお知らせします。107MW の内訳は、67MW 規模の「ミッドウェイ I プロジェクト」と 40MW 規模の「ミッドウェイ II プロジェクト」で、前者は Pacific Gas & Electric 社との間で、後者は Imperial Irrigation District 社との間で電力購入契約（PPA）を締結しています。

これらのプロジェクトは、ソーラーフロンティア・アメリカズ子会社のソーラーフロンティア・アメリカズ・ディベロップメントが進めており、経験豊かな専門チームが各プロジェクトのスムーズな遂行を管理しています。ソーラーフロンティア・アメリカズ・ディベロップメントは、2015年4月に Gestamp North America 社から合計 280MW の太陽光発電所開発案件群を取得しており、ミッドウェイ I およびミッドウェイ II はこれらの案件群の一部です。なお、EPC（設計・調達・建設）サービスは Blattner Energy 社が、インバーターは Power Electronics 社が、またソーラートラッカー（太陽光追尾装置）は NEXTTracker 社が提供します。

ソーラーフロンティア・アメリカズ・ディベロップメントの CEO であるチャールズ・ピメンテルは、次のように述べています。「当社は現在、米国において 400 MW を超える太陽光発電所開発案件群を保有しており、信頼性および経済性の高いサービスを提供する企業としての地位を確立しました。」

インペリアル郡第4地区¹を担当する管理委員会のライアン・ケリー氏は、「ソーラーフロンティアの太陽光発電プロジェクトは、地元住民の雇用を促進し、地域経済に貢献します。」と述べています。

ソーラーフロンティアの CIS 薄膜太陽電池モジュールは、シリコン系と比較して、実際の設置環境下において高い実発電量を実現しており、投資家やプロジェクトディベロッパーから着目されています。ソーラーフロンティアは今後とも、世界中のお客様に快適でクリーンな暮らしをお届けしてまいります。

¹ インペリアル郡は 5 区に分かれており、ソーラーフロンティアの 2 案件が所在するのは第 4 区。



「ミッドウェイ I プロジェクト」の建設地で着工準備をする作業員の様子

以上

【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は、昭和シェル石油株式会社（5002, T）の 100% 子会社で、世界最大の CIS 薄膜太陽電池のソリューション企業です。当社が生産・販売する CIS 薄膜太陽電池は、実際の設置環境における経済性および環境特性の高さが特徴で、これまでに住宅用・産業用の両面において革新的かつプロフェッショナルなソリューションをご提供してきました。ソーラーフロンティアは、太陽による快適でクリーンな暮らしをすべての人にお届けします。企業情報や最新ニュースの詳細は、当社公式の[ホームページ](#)、[Facebook](#)、[Twitter](#) をご覧ください。

報道関係からの問い合わせ先:

ソーラーフロンティア株式会社 コーポレートコミュニケーション部
吉田・八宮 TEL: 03-5531-5792